



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

令和4年10月4日

<10月号>

いじめをしない、見逃さない、許さない学校に

校長 後藤 修治

校庭の木々の葉も少しずつ色付き始め、秋の気配を感じられるようになってきました。また、スポーツの秋、芸術の秋と言われるように、何をするにも過ごしやすく、適した時季となってきました。10月はランニング記録会に始まり、文化祭と行事も盛りだくさんです。子どもたちにとって実りの秋となるようご家庭においてもご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、10月は「新潟県いじめ見逃しゼロ強調月間」です。新潟県は、学校・家庭・地域が連携して児童、生徒を見守るとともに、社会性を育成し、いじめをはじめとする諸問題の未然防止に取り組む「いじめ見逃しゼロ県民運動」を実施しています。この県民運動の趣旨を踏まえ、学期がスタートして1カ月あまりが経ち、いじめが起きやすいとされる6月と10月を強調月間とし県全体で取組を強化していこうというものです。

そこで、3日（月）の全校朝会で、子どもたちにいじめについて考えてもらう機会をもちました。まず、いじめをしている人、いじめられている人、どちらでもない人の一般的に考えられる心の中をのぞいてもらいました。

<いじめをしている人>

・ちょっとからかっただけだよ。 ・遊びやふざけているだけなんだけど。 ・相手が悪いんだ。

<いじめられている人>

・やめてほしいけれど言えない。 ・言うともっとひどくなるかも。 ・心配かけたくないからがまんしよう。

<どちらでもない人>

・かかわったら自分がいじめられるかも。 ・注意したいけれどこわいな。 ・自分には関係ない。

そして、いじめをなくすために、それぞれの立場の人にどんな言葉をかけたいか子どもたちに聞きました。いじめをしている人に対しては、『だめだよ。』『相手の気持ちを考えた方がいいよ。』と言う。「どうしてそんなことをするか理由を聞いて、やめるように言う。」という答えが返って来ました。いじめられている人に対しては、『だいじょうぶ?』『だれかに相談するといいよ。』など優しい言葉をかける。」といった答えが返って来ました。そして、どちらでもない人に対しては、『一人で注意できなかったら二人でするといいよ。』『いじている人にやめるように言おうよ。』と言う。」といった答えが返って来ました。

最後に、「いじめのない学校、みんなが気持ちよく生活できる学校にこれからもしていこう」ということを再確認し全校朝会のお話を終えました。

学校では、今後も道徳の授業等で「いじめをしない、見逃さない、許さない」意識の醸成を図っていきます。ご家庭においても、この機会にいじめについて話題にいただければと思いますし、お子さんのことでご心配なことがございましたら、いつでもご相談ください。